

エコアクション21 環境経営レポート

2023年度

運用期間：2023年10月～2024年9月



大洋建設株式会社

2024年10月31日 発行

【 目 次 】

表 紙	… 1
目 次	… 2
1. 組織の概要	… 3
1) 事業者名及び代表者名	
2) 所在地	
3) 事業の概要	
4) 事業規模	
5) 推進組織図	
2. 対象範囲	… 4
1) 対象範囲	
2) 環境管理責任者及び事務局及び連絡担当者	
3) レポートの対象期間及び発行日	
3. 環境経営方針	… 5
4. 環境経営目標	… 6
5. 環境経営目標の実績	… 7
6. 環境経営計画の取組結果とその評価	… 8
7. 環境経営計画の次年度の取組内容と次年度の環境経営目標	… 9
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	… 10
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示	… 10

1. 組織の概要

1) 事業者名及び代表者名

大洋建設 株式会社

代表取締役 吉 田 昭 彦

2) 所在地

本社事務所 〒882-0024 宮崎県延岡市大武町1323番地204

資材置き場 〒882-0024 宮崎県延岡市大武町1323番地204

3) 事業の概要

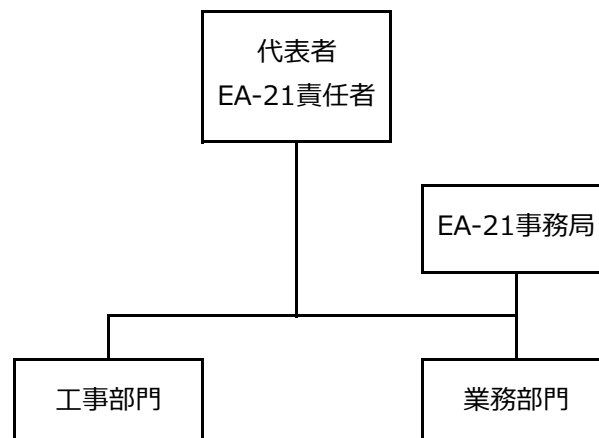
建設業（土木工事業、舗装工事業、とび・土工工事業、水道施設工事業）

4) 事業規模

事業の創立年月日 1970 年 7 月 20 日〔創立から 54 年〕

項目	単位	2021年	2022年	2023年
従業員数	人	16	15	13
床面積	m2	150	150	150
敷地面積	m2	2,879	2,879	2,879
工事件数	件	82	80	90

5) 推進組織図



2. 対象範囲

1) 対象範囲

全組織・全活動

〔組織〕 本社事務所及び資材置き場

〔活動〕 建設業

(土木工事業、舗装工事業、とび・土工工事業、水道施設工事業)

2) 環境管理責任者及び事務局及び連絡担当

E A 2 1 責任者 : 代表取締役 吉田 昭彦

E A 2 1 事務局 : 土木部 原田 昌子

連絡担当者 : 小林 裕見子

T E L : 0982-21-5917 F A X : 0982-32-4476

E-meil : daiyou@daiyou-kk.com

3) レポートの対象期間及び発行日

レポート対象期間 2023年10月 1日 ~ 2024年 9月30日

レポート発行日 2024年10月31日

3. 環境経営方針

(企業理念)

大洋建設株式会社は、エコアクション21に取り組む環境経営を推進していくことで地球環境を守り循環型社会の構築に参加し、より良い環境を次世代へ引き継ぐ為、努力貢献します。

(基本方針)

大洋建設株式会社はすべての事業活動に於いて、本店及び各現場で全社員自ら環境改善活動に努め、地域環境保全のために社会的責任を果たします。

- I. 環境改善に対する目標を数値化し、環境マネジメントシステムを構築します。
- II. 環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境保全活動を展開します。
- III. 環境関連法令、規則、協定を遵守します。
- IV. 建設事業に於いて、環境に与える影響を削減するため次の事項を重点項目とし、優先的に取組をします。
 - ① 電気・燃料等のエネルギーの使用量の削減、CO₂排出量の削減
 - ② 工事現場、事業所から排出される廃棄物の削減及び再資源化の推進
 - ③ 節水活動による水使用量の削減
 - ④ 地域における環境保全活動への参加により社会貢献を推進
 - ⑤ 環境意識の改善を図り、エコドライブ、ペーパーレス化の実践
 - ⑥ 工事事業においては、環境に配慮した施工方法を積極的に提案
 - ⑦ 建設ICTの活用による作業の効率化、作業環境の改善
- V. 環境経営方針をすべての従業員に周知徹底し環境に対する意識向上に努めます。

この環境経営方針は、環境経営レポートによって広く一般に開示します。

2010年 9月 17日 制定
2011年 10月 1日 改訂
2017年 6月 1日 改訂
2019年 10月 1日 改訂

大洋建設株式会社

代表取締役 吉田 昭彦

4. 環境経営目標

当社の環境経営目標は、環境負荷の調査結果より以下のような目標を設定しました。
 なお、目標設定の基準は2017年度から2018年度実績平均のデータを使用しています。

取組み項目 (目標項目) (単位)			実施区	年 度 別 環 境 目 標			
				基準値 (2017～2018 年度実績平均)	2022年度 (2022年10月～ 2023年09月)	2023年度 (2023年10月～ 2024年09月)	2024年度 (2024年10月～ 2025年09月)
省 エ ネ ル ギ ー 項 目	1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg -CO ₂)		事務所	11,558.2	11,327.6	11,269.8	11,212.0
			現場	69,917.7	68,502.3	68,170.7	67,821.1
			全社	81,475.9	79,847.9	79,440.5	79,033.1
	①電気使用量の削減 (総電力使用) (kWh)		削減率 →		2.0%	2.5%	3.0%
			事務所	11,702.5	11,468.5	11,409.9	11,351.4
			現場	0.0	0.0	0.0	0.0
			全社	11,702.5	11,468.5	11,409.9	11,351.4
	②燃料使用 量の削減	・ガソリン使用 量の削減 (L)	事務所	2,364.1	2,317.0	2,305.2	2,293.4
			現場	15,083.4	14,781.9	14,706.5	14,631.1
			全社	17,447.5	17,098.9	17,011.7	16,924.5
		・軽油使用量の 削減 (L)	削減率 →		2.0%	2.5%	3.0%
			事務所	0.0	0.0	0.0	0.0
			現場	13,536.5	13,266.0	13,198.3	13,130.6
			全社	13,536.5	13,266.0	13,198.3	13,130.6
2 廃 棄 物 の 削 減	①.一般廃棄物の削減 (kg)		削減率 →		2.0%	2.5%	3.0%
			事務所	335.7	329.4	327.7	326.0
			現場	0.0	0.0	0.0	0.0
			全社	335.7	329.4	327.7	326.0
	②建設副産物の再資源化率 (%)		現場	2,285.26 ^ト 〔99.7%〕	再資源化率 95%以上		
3. 水資源使用量の削減 (年間水資源総使用量) (m ³)			削減率 →		2.0%	2.5%	3.0%
			事務所	95.0	93.4	92.9	92.4
			現場	0.0	0.0	0.0	0.0
			全社	95.0	93.4	92.9	92.4
4 環 境 改 善 活 動	①環境保全の取組推進		全社	5回／年	5 回以上／年	5 回以上／年	5 回以上／年
	②環境配慮型施工の推進		全社	－	環境経営活動 計画を遵守	環境経営活動 計画を遵守	環境経営活動 計画を遵守

※2021.11.1 改訂点 ・ 事務所の電気のCO₂排出係数は、伊藤忠エネクス調整後係数0.519を採用した。
 ・ 現場の電気のCO₂排出係数は、九州電力調整後係数0.391を採用した。

5. 環境経営目標の実績

環境目標に対する達成状況は以下の通りです。

実績値は、2023年度運用期間（2023年10月～2024年09月）の1年間で、目標値は基準年度（2017年度～2018年度実績平均値）の2.5%削減。

取 組 項 目			目標値	実績	達成率	評価	
省 エ ネ ル ギ ー 項 目	1．二酸化炭素排出量の削減 (k g -CO ₂)		全社	79,440.5	65,128.1	122.0 %	○
	①電気使用量の削減 (kWh)	事務所	11,409.9	13,916.0	82.0 %	×	
		現場	実績で管理		0.0	—	—
		全社	11,409.9	13,916.0	82.0 %	×	
	②ガソリン使用量の削減 (L)	事務所	2,305.2	699.7	329.5 %	○	
		現場	14,706.5	8,691.4	169.2 %	○	
		全社	17,011.7	9,391.1	181.1 %	○	
	③軽油使用量の削減 (L)		現場	13,198.3	13,999.4	94.3 %	×
2．廃棄物の 削減	①一般廃棄物の 削減 (kg)	事務所	327.7	231.8	141.4 %	○	
	②建設副産物の 再資源化率 (%)	現場	95%以上	99.9% (1431 t / 1432 t)	—	—	
3．水資源使用量の削減 (m ³)		事務所	92.9	73.5	126.4 %	○	
4 環 境 改 善 活 動	①環境保全の取組推進		全社	5回／年	6回／年	120.0 %	○
	②環境配慮型施工の推進		全社	環境経営活動 計画を遵守	環境経営活動 計画を遵守	—	—

※ 現場の電気使用量は現場によって大きく左右されるため、実績で管理します。

※ 購入電力のCO₂排出係数は、事務所は伊藤忠エネクス0.519を使用しました。

※ 事務所の灯油を含めた二酸化炭素総排出量は、65,227.7 kg-CO₂です。

6. 環境活動経営計画と取組結果とその評価

取組項目		活動内容	推進 責任者	取組結果	評価
1 二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	①電気使用量の削減	①不在箇所、不要箇所の電気消灯の徹底 ②空調温度管理〔設定温度遵守〕 ③パソコン、コピー機等の省エネ設定 ④ブラインド、カーテン等で熱の出入りを調節する ⑤扇風機の併用でエアコンの利用を抑制する ⑥トイレの温水洗浄便座の節電	業務部門	不在箇所、不要箇所の電気消灯等の徹底、エアコンの設定温度遵守ができていないことパソコンのディスプレイ増設（作業効率化）等により目標達成できなかった。	△
					△
					○
					○
					△
					△
	②化石燃料使用量の削減 ②－１．ガソリン ②－２．軽油	①エコドライブの徹底 ②効率の良い配車（相乗り） ③不要な荷物を積んだままにしての走行はしない ④タイヤの空気圧チェック ⑤重機の定期点検整備の実施 ⑥低燃費車のリース利用 ⑦建設機械の省エネ運転の推進 ⑧段取り良い前準備等をし、折り返し運行をしない	工事部門	ガソリン使用量は、市内の現場が多かったことにより目標達成できた。 軽油に関しては重機及びダンプ等を使用する現場が多く目標達成できなかった。	○
					○
					△
					○
					○
					○
					△
2 廃 棄 物 の 削 減	①一般廃棄物の削減	①両面・集約コピー、裏紙使用の推進 ②社内LAN・電子メールを活用しペーパーレス化の推進 ③ゴミの持込を減らす ④コピートナーカートリッジは納入業者に持ち帰ってもらう	業務部門	ゴミの持込み削減等、裏紙使用、社内LAN等の推進で目標は達成できた。	△
					○
	②建設副産物 再生資源率の向上	①資材発生時は設計数量の再チェック、及び在庫の確認を行い残余資材の発生を抑制する ②建設残余資材が発生したら、分別して持ち帰り再利用を行う ③混合廃棄物は、できるだけ分別し最終処分量の削減を図る	工事部門	建設副産物は、カッター切断時の汚泥と廃ブラが多少発生したが、ほとんどがコンクリート殻・アスファルト殻であり、再資源化率は99.9%であった。	○
					○
3．水資源使用量の削減 （年間水資源総使用量）		①水道配管からの漏水を定期的に点検する ②手洗い時の流し水を短くする ③こまめな蛇口の開閉の徹底 ④蛇口付近に「節水」を意識させるシール等を貼付る	業務部門	節水意識が定着し、ほぼ基本量前後の消費で、約20m3の節水となった。 目標は達成できた。	○
					○
					△
					○
4 有 益 な 環 境 活 動	①環境保全の取組推進	①事務所周辺の清掃活動 ②現場周辺の清掃活動 ③地域ボランティア活動への参加	工事部門	事務所周辺、現場周辺の清掃活動を実施した。 公園や海岸及び河川敷などの清掃や草刈り等の地域貢献活動を実施した。 目標は達成できた。	○
					○
					○
	②環境配慮型施工の推進	①しっかりした工程管理で工期短縮に取り組んでいる ②環境配慮型重機等の活用 ③グリーン製品を優先して購入する ④ICTの導入による作業の効率化、工期短縮	工事部門	①おおむねできた。 ②、③は活動できていた。 ④今回はなかった。	○
					○
					○
					－

7. 環境経営計画の次年度を取組内容と次年度の環境経営目標

次年度（2024度）の環境経営計画と環境経営目標は下記の通りです。

※活動期間は、2024年10月から2025年09月です。

取組項目		活動内容	環境経営目標
省エネルギー項目	1. 二酸化炭素排出量の削減		79,033.1 (kg-CO ₂)
	①電気使用量の削減	①不在箇所、不要箇所の電気消灯の徹底 ②空調温度管理〔設定温度遵守〕 ③パソコン、コピー機等の省エネ設定 ④ブラインド、カーテン等で熱の出入りを調節する ⑤扇風機の併用でエアコンの利用を抑制する ⑥トイレの温水洗浄便座の節電	全社 11,351.4 (kWh)
	②化石燃料使用量の削減 ②-1. ガソリン ②-2. 軽油	①エコドライブの徹底 ②効率の良い配車（相乗り） ③不要な荷物を積んだままにしての走行はしない ④タイヤの空気圧チェック ⑤重機の定期点検整備の実施 ⑥低燃費車のリース利用 ⑦建設機械の省エネ運転の推進 ⑧段取り良い前準備等をし、折り返し運行をしない	ガソリン 全社 16,924.5 ℓ 軽油 全社 13,130.6 ℓ
2. 廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減	①両面・集約コピー、裏紙使用の推進 ②社内LAN・電子メールを活用しペーパーレス化の推進 ③ゴミの持込を減らす ④コピートナーカットリッジは納入業者に持ち帰ってもらう	全社 326.0 (kg)
	②建設副産物 再生資源率の向上	①資材発生時は設計数量の再チェック、及び在庫の確認を行い 残余資材の発生を抑制する ②建設残余資材が発生したら分別して持ち帰り再利用を行う ③混合廃棄物は、できるだけ分別し最終処分量の削減を図る	95%以上
3. 水資源使用量の削減 (年間水資源総使用量)		①水道配管からの漏水を定期的に点検する ②手洗い時の流水水を短くする ③こまめな蛇口の開閉の徹底 ④蛇口付近に「節水」を意識させるシール等を貼付る	全社 92.4 (m ³)
4. 環境改善活動	①環境保全の取組推進	①事務所周辺の清掃活動 ②現場周辺の清掃活動 ③地域ボランティア活動への参加	5回以上/年
	②環境配慮型施工の推進	①しっかりした工程管理で工期短縮に取り組んでいる ②環境配慮型重機等の活用 ③グリーン製品を優先して購入する ④ICTの導入による作業の効率化、工期短縮	環境経営活動 計画を遵守

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社では、環境関連法規制の遵守状況確認を毎年4回実施しており、違反はありませんでした。

また監督官庁からの指摘及び、地域住民から訴訟等ありませんでした。

尚、現場での遵守状況は、月1回の安全パトロールや会議等を通じて常に確認しています。

当社の事業に関する主な環境関連法規とその遵守状況は以下の通りです。

法規名	遵守事項	評価
産業廃棄物	・委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	・回収、照合確認（発行後B2・D票90日、E表180日以内） A票の5年間保管	遵守
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告（6月30日までに知事へ報告）	遵守
	・保管場所の掲示板設置	遵守
建設リサイクル法	・発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	・工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出	遵守
	・分別解体、再資源化促進、再資源利用	遵守
フロン排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用エアコン等の簡易点検実施（重機搭載のエアコン含む）	遵守
再生資源利用省令	・再資源利用計画書、実施書の作成 ・再資源利用促進計画書、実施書の作成	遵守
騒音規制法	・知事へ7日まえまでに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	該当なし
振動規制法	・知事へ7日まえまでに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	該当なし
浄化槽法	・年1回の清掃と年3回の保守点検の実施 ・年1回の法定点検の実施	遵守

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

評価項目	代表者による評価と見直し・指示
①環境経営目標の達成状況、及び環境経営計画の実施状況	・環境経営目標達成状況管理表等で確認。当年度は目標達成できた。 ・電気使用量は例年に比べ猛暑日が多くエアコンの設定温度遵守ができていないことパソコンのディスプレイ増設（作業効率化）等により目標達成できなかった。 ・ガソリン使用量は市内の現場が多かったこと等により目標達成できたが、軽油使用量は目標達成できなかった。軽油に関しては重機及びダンプを使用する現場が多かったことが原因と考えられる。 ・工事の受注量、内容や場所により使用量が左右されCO₂削減は厳しい状況にあると思うが、引き続き環境経営活動計画を継続するとともに、工期の短縮、工法、作業の連続施工を考慮して欲しい。 ・環境経営計画の実施状況及びその評価結果等で確認。内容は実施されているようだが、不在箇所の電気消し忘れが何回か見受けられた。
②環境関連法規等の遵守状況	・環境関連法規の取りまとめ兼遵守状況の結果で確認。計画通り年4回のチェックが行われ、当社に関連する法規等は取りまとめされ全て遵守している。 ・次年度も最新情報を把握し、関連法規の見直し、業務と環境活動に取組むこと。
③外部からの環境に関する苦情や要望等	・環境情報記録表により確認。当年度は苦情やクレームがなかったこと、参加依頼のあったボランティアへも積極的に参加したことは評価したい。今後も、現場周辺の住民とのコミュニケーションや地域貢献活動など、積極的に取組むこと。
④その他、全般について	・特になし